



挑戦で北海道を動かす

今季から、株式会社HBAは、北海道日本ハムファイターズのスポンサーに加わります。北海道を幸せに、元気に。そう願うトッパン人が、北海道だからできる挑戦、描ける夢を語ります。



撮影協力／エスコンフィールドHOKKAIDO（北広島市）



小村勝（こむら まさる）

1966年生まれ、大阪府出身。1988年、日本ハム株式会社に入社。加工事業本部の関西フードサービス部長、マーケティング推進部長を経て、2022年に株式会社北海道日本ハムファイターズ取締役、株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント取締役、日本ハム株式会社経営企画本部 北海道プロジェクト推進室長。2023年3月より現職。

白幡一雄（しらはた かずお）

1963年、北海道生まれ。1987年、北海道ビジネスオートメーション（現・株式会社HBA）に入社。技術者としてキャリアをスタートし、企画管理や自治体システム部門などの要職を歴任。現場でのシステム開発から組織マネジメント、そして東京支社長として首都圏での事業拡大にも取り組む。2020年に取締役執行役員常務を経て、2024年4月より現職。

HBAの赤いロゴがエスコンフィールドHOKKAIDOに

白幡「いつ来ても、エスコンフィールドHOKKAIDOはいいですね。工事の間も、スタジアムが出来上がっていく様子を見てはワクワクしていました。」

小村「ありがとうございます。このスタジアムは、2020年に着工し、完成まで約3年、その間にはコロナ禍もあるなど大変な中で延べ約65万人で作り上げました。HBAさんには、今年から北海道日本ハムファイターズ（以下、ファイターズ）のスポンサーに加わっていただき、感謝しています。」

白幡「昨春秋、社内でのこの件を発表したところ、社員がとても喜びました。微力ながら、我々も北海道のプロスポーツシーンを盛り上げるお手伝いができたらと思っています。」

小村「スタジアムに設置されたHBAさんの看板は、赤いロゴが目立っていますね。」

株式会社HBA 代表取締役執行役員社長

白幡一雄



株式会社北海道日本ハムファイターズ 代表取締役社長兼オーナー代行
株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント 代表取締役社長

小村勝



球団経営の参画から続く、挑戦のDNA

白幡「ファイターズは、『常に挑戦する球団』だと感じております。これまでの象徴的な挑戦について教えていただけますか。」

小村「ファイターズのルーツであるセネタースの創立は1945年で、日本ハムが経営権を獲得したのは1973年です。これは、日本ハムの創業者が当時のオーナー、大社義規（おおぞよしのり）が、銀行、株主、役員などの反対を押し切って下した英断でした。大社は、『日本ハムってどんな会社？』と従業員が社外の人から問われたとき、一言で説明できる何かが必要だと考え、球団経営に着目しました。昨年は、大社の生誕110年、没後20年だったことから、大社の先見性と挑戦に敬意を表すセレモニーをここで行いました。」

白幡「従業員のために球団経営に参画したとは、初めて知りました。」



エスコンフィールドHOKKAIDO一翼側に掲出される、HBAのロゴ。赤い文字が際立っている

つひとつひの取り組みをつなげ、北海道全体を活性化したい

小村「HBAさんは、北海道で創業してから60年以上たつんですね。」

白幡「はい。当社は1964年、道や市町村の受託計算を主要業務として創業しました。そこからシステムインテグレーション、ソフトウェア開発、クラウドサービス、アウトソーシングサービスと事業を拡大し、現在はAIやロボティクスの分野も手掛けています。」

小村「ファイターズも情報収集、データ分析にはかなり力を入れています。特にスカウティング、育成では、骨格がどうか、バッチャーなら何球以上投げると球の落ち方がどう変わるのか、選手一人ひとりを丸裸にするくらいデータを集め、分析します。すべては勝つため、勝ちにいくためにはそこまでのファイターズ流です。」

白幡「勝利のためにそこまで徹底しているとは、驚きました。一方で、ファイターズは北広島市をはじめ、まちづくりに熱心で、その点は、当社と想いを共有できるのではないかと感じています。当社は、ITやDXのノウハウを生かし、地域活性化と町民サービスの向上に貢献しようと、2024年に鹿追町と包括連携協定を結びました。これを発端に、当社のデータセンターの消費電力を鹿追町のバイオガスプラントで発電された電力へ切り替えています。小村「環境面からいっても、それは良い案ですね。」

白幡「昨年9月には、小樽市と生成AIの導入および利活用に関する連携協定を締結しました。こうしたつひとつの取り組みはまだ点にすぎませんが、やがて線となり面となつて、北海道全体の活性化につながればという夢を描いています。」

小村「チーム名に北海道が付いているファイターズにとっても、北海道全体が元気になることはとても喜ばしいことです。そのために我々がやるべきことは、シンプルに言えば、優勝することなのですが、これまで通り、北海道の皆さんが元気になる活動、チームづくりも並行して進めていきます。」



「エスコンフィールドHOKKAIDOは、地域活性化の核。人々を誘引するパワーがすごいです」と白幡社長

北海道が元気になるために北海道で愛されるために

小村「食品分野に関わったことがある人は強く実感していると思うのですが、北海道のブランド力は、世界でも通用し、評価されています。旭川にある日本ハムグループの工場で作った製品が海外で販売されているように、北海道と世界は近くなつていきます。HBAさんは、世界進出についてはどのように考えていますか。」

白幡「2014年、タイのバンコクに子会社を設立し、ソフトウェア開発とネットワークに関するアドバイスを行っています。最近ではベトナムやタイでの人的リソースの供給も進めており、遠くない将来、当社のシステムや製品を各国で展開することも可能だと見込んでいます。また、北海道にある過疎化や雪などの課題を我々のITの力によって解決できれば、同様の問題を抱える国内、世界でも転用できます。北海道から全国へ、世界へという構想を社員みんなで描いているところです。小村「それは楽しみです。大いに期待しています。」

白幡「当社はこれまで安定した『よい会社』でした。それをベースに、私が社長になつてからはより『つよい会社』になろうと、社内にメッセージを出しています。今年も、挑戦することがスタートだという心構えで、頑張っていきます。ファイターズさんは、今年はどうな一年にしたいですか。小村「もちろん、勝ちたいです。その上で、ファイターズが目指す『世界で一番愛される球団』になるために、まず、北海道で一番愛される球団になることに努めていきます。」

白幡「良い一年にしたいですね。貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございます。」



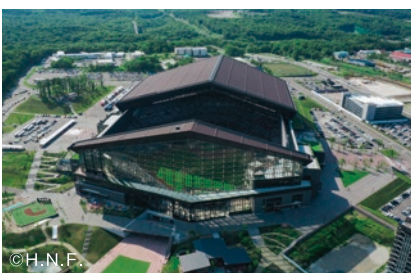
Xで盛り上がる「Fビレッジおじさん」について、「来場者と一緒に“楽しい場所”をつくるためのツール」と小村社長



日本初の開閉式屋根付き天然芝球場。フィールドが一望できるブルワリーレストランなどがこれまでにない観戦体験を届ける

株式会社HBA

1964年に札幌を本社に誕生した、ITソリューション企業。東京（品川）、大阪、山梨に事業所を持ち、業界・業種問わず全国各地の企業や自治体などのニーズに合ったサービスを提供。お客さまの課題を解決することで社会全体の課題を解決し、「だれもが幸せな社会」を実現することをパーパスとして掲げている。2024年に創業60周年を迎えた。



株式会社北海道日本ハムファイターズ 株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント

大阪市に本社を置く大手食品加工メーカー・日本ハム株式会社のグループ会社である北海道日本ハムファイターズは球団運営を担い、ファイターズスポーツ&エンターテインメントはボールパーク全体のマネジメント、球場運営、プロ野球関連興行業務を行っている。

過去の対談企画はこちら

